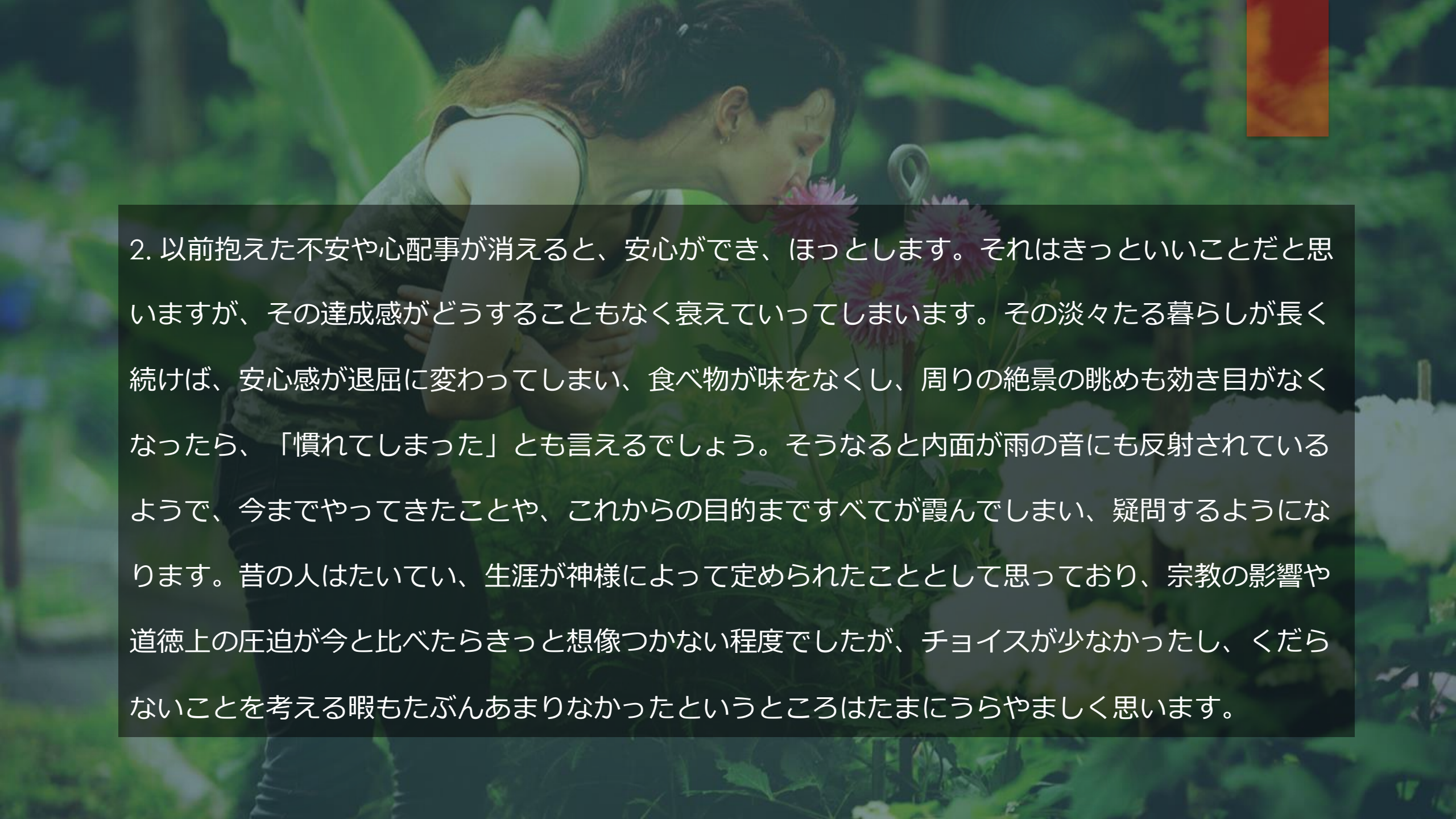




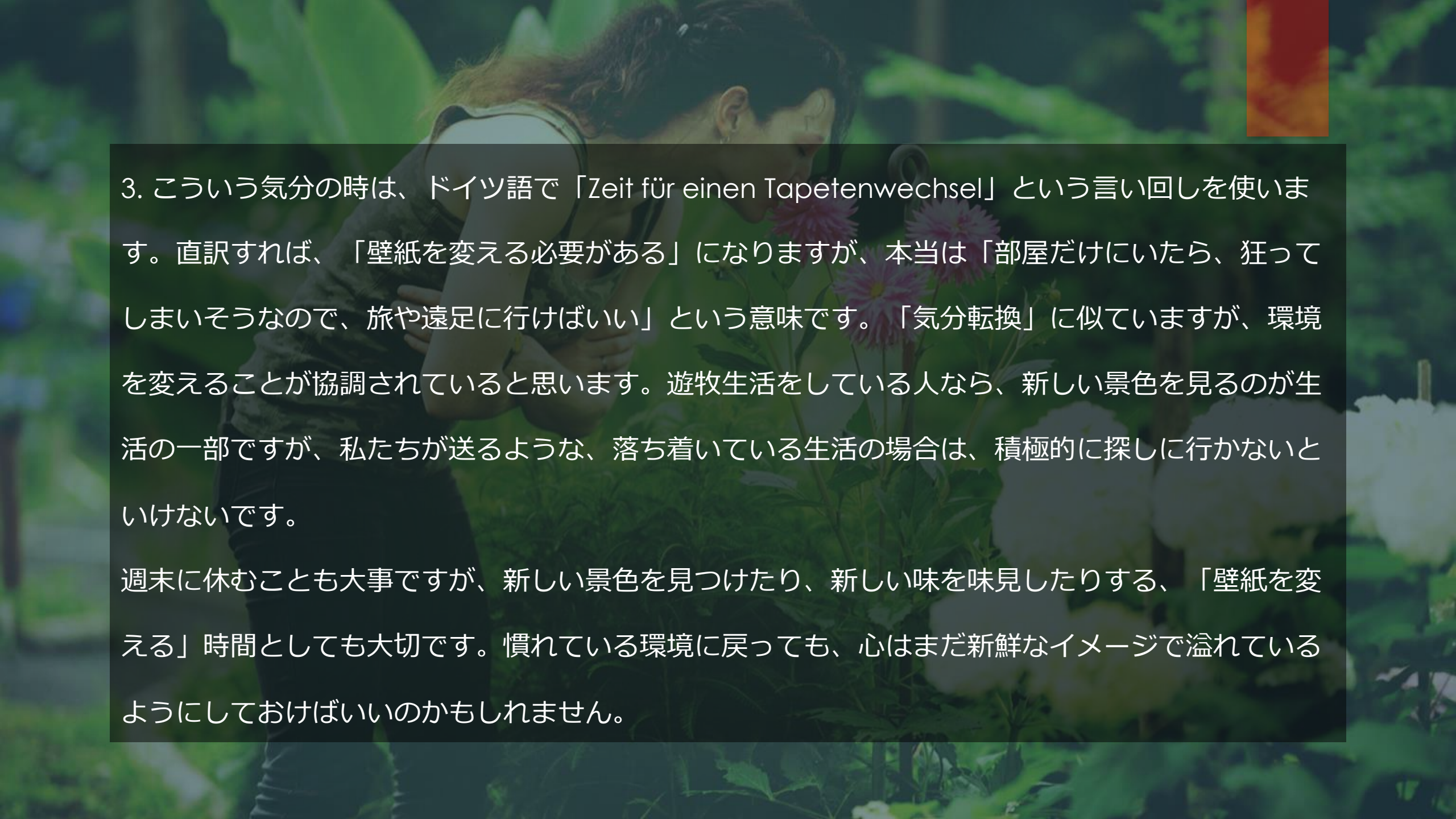
7月「Heimisch werden」 アントニア・シュルト

1.梅雨に入ると、気が重くなる時があります。雨がトントンと窓にたたくという抑揚のない歌を聴きながら、暗い部屋で畳の上に仰向けにごろーんとして、人生のあれこれを考えてしまいます。

日本に来たばかりのときは、こうなるのがあまりなかったと思います。天気が良くななくても、日本で生活するという夢が叶ったことだけで、充実感が湧いて、これからやってみたいこと、食べてみたいもの、行ってみたいところをワクワクしながら想像しました。最初、「日本にはもう慣れましたか」と聞かれたときに、「はい、だいぶ慣れてきました」と返したかもしれません。今、少し振り返してみると、「慣れる」というのが本当に望ましいことかどうか、自信がなくなりました。一般的な意味で、「新しい環境に慣れる」とは、スーパーがどこにあるか、仕事に遅刻しないように家を何時に出ればいいのかといった日常問題がなくなった状態だと思います。

A woman with dark hair, wearing a dark tank top, is leaning forward and smelling a cluster of purple flowers in a garden. The background is filled with green foliage and other flowers, including a white one on the right. The overall scene is peaceful and natural.

2. 以前抱えた不安や心配事が消えると、安心ができ、ほっとします。それはきっといいことだと思いますが、その達成感がどうすることもなく衰えていってしまいます。その淡々たる暮らしが長く続けば、安心感が退屈に変わってしまい、食べ物が味をなくし、周りの絶景の眺めも効き目がなくなったら、「慣れてしまった」とも言えるでしょう。そうなると内面が雨の音にも反射されているようで、今までやってきたことや、これからの目的まですべてが霞んでしまい、疑問するようになります。昔の人はたいてい、生涯が神様によって定められたこととして思っており、宗教の影響や道徳上の圧迫が今と比べたらきっと想像つかない程度でしたが、チョイスが少なかつたし、くだらないことを考える暇もたぶんあまりなかつたというところはたまにうらやましく思います。

A woman with dark hair tied back is leaning over a garden, smelling a cluster of pink flowers. She is wearing a dark sleeveless top. The background is a lush green garden with various plants and flowers. The text is overlaid on a semi-transparent dark green background.

3. こういう気分の時は、ドイツ語で「Zeit für einen Tapetenwechsel」という言い回しを使います。直訳すれば、「壁紙を変える必要がある」になりますが、本当は「部屋だけにいたら、狂ってしまいそうなので、旅や遠足に行けばいい」という意味です。「気分転換」に似ていますが、環境を変えることが協調されていると思います。遊牧生活をしている人なら、新しい景色を見るのが生活の一部ですが、私たちが送るような、落ち着いている生活の場合は、積極的に探しに行かないといけないです。

週末に休むことも大事ですが、新しい景色を見つけたり、新しい味を味見したりする、「壁紙を変える」時間としても大切です。慣れている環境に戻っても、心はまだ新鮮なイメージで溢れているようにしておけばいいのかもしれません。